

米子高専のSDGsアクション1

環境と共生したものづくり教育



米子工業高等専門学校建築学科では環境と共生したものづくり教育を2005年(平成17年)度から実践しています。

これは「環境学習」と「ものづくり学習」を融合させた一年間の教育プログラムとして整備したもので、建築学科3年生を対象として行っています。

この取組では、環境学習として鳥取県大山町および伯耆町の山林(人工林)を実習地とした一連の林業体験実習(下刈り・間伐・枝打ち)を通して**森林保全**や木材生産について学びながら、ものづくり学習として公共空間での使用を前提とした**間伐材利用**・柿渋塗装の木製ベンチを学生がチームワークで自ら設計・施工を行い、成果物作品として提出します。

対応するSDGsゴール15「森の豊かさを守ろう」

2009年(平成21年)度取組からは、制作ベンチの設計条件を全国最大級規模のフラワーパーク「とっとり花回廊」に設置するものとし、以来毎年6~7台程度制作しています。完成したベンチはとっとり花回廊で大切に使われて多くの来場客に利用されています。

学生はベンチの具体的な設計を行う前に設置予定地の現場見学を行います。この際、先輩が過去に制作したベンチ作品についても見学し、そのデザインや施工上の工夫や失敗を学ぶと同時に、木材の特徴に起因する経年変化の様子を観察します。**修繕**が必要な場合には柿渋の再塗装、ネジ類の締め直し等のメンテナンス作業をその場で行います。この作業を通じて、つくったものが人々に**長く使われる**ためには、設計時に後の**メンテナンス**についても考える必要がある、ということを学びます。

対応するSDGsゴール12「つくる責任つかう責任」

この教育プログラムは、林業家、鳥取県木造住宅推進協議会西部支部(木造住宅建築関連企業の団体)、鳥取県観光事業団とっとり花回廊、鳥取県西部総合事務所農林局農林業振興課のパートナーとの**産官学連携**により取り組んでいます。

対応するSDGsゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



下刈り体験実習



間伐体験実習



メンテナンス実習



木工実習



成果物発表



枝打ち体験実習

